

障がいのある方に対する取組について

【関連：目標 4（1） 目標 4（2）】 資料支援室・総合サービス室

【事業目的】

「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（通称：読書バリアフリー法）の目的・理念に則り、視覚障がい者等の読書環境、情報環境の改善と資料の量的拡充を図る。

【事業概要】

1 アクセシブルな書籍等の充実

大活字本、点字図書、LLブック、マルチメディアデージー等の収集。オーディオブック等の電子書籍サービスを導入。文字色反転、文字サイズ・コントラストの調整が可能なほか、一部資料が音声読み上げ対応。（令和4年度 306タイトル）

2 利用しやすい施設・設備（機器）、サービスの充実

- ・音声読み上げパソコン、拡大読書器、プレクストーク、タブレット、リーディングトラッカーを整備
- ・筆談のほか、カウンターに助聴器、コミュニケーションボードを設置し、障がいの種類及び程度に配慮した利用者とのコミュニケーションツールを整備
- ・窓口でバリアフリーサービスを紹介するリーフレットを配布

3 録音図書の製作・貸出サービス

- ・福岡県立図書館音訳の会（ボランティア）が DAISY（デージー）図書を製作
令和4年度受入：121タイトル
- ・音訳技術の向上や知識習得のための研修会や録音図書製作ボランティア養成講座を開催
- ・録音図書利用冊数（福岡県立図書館要覧より）

	個人（冊）	団体（冊）	合計
令和2年度	1,596	872	2,468
令和3年度	1,408	879	2,287
令和4年度	1,284	851	2,135

- ・サピエ図書館（視覚障がい者情報総合ネットワーク）オンラインリクエスト
平成27年7月からサピエ図書館オンラインリクエストの受付開始
令和4年度オンラインリクエスト受信数：805回
- ・国立国会図書館視覚障がい者等用データ収集事業への参加
当館が音声 DAISY データの提供館として、令和元年7月から国立国会図書館へデータを提供
令和4年度登録数：180タイトル（累計640）、利用数：38,757回（令和4年4月～令和5年3月）

4 図書館サービスに係る情報発信

- ・バリアフリー体験会を実施し、当事者はじめ支援者、行政・教育関係者に当館が提供しているサービスの周知を図るとともに、利用体験の機会を設ける。

5 他機関との連携

- ・福岡県点字および録音図書連絡協議会の運営
視覚に障がいのある人等の読書普及に資するための情報交換や研修会を実施
現在会員数は15施設
公共図書館7館・点字図書館3館・視覚特別支援学校4校・国立福岡視力障害センター

【今後の課題】

1 バリアフリー資料の種類と量的拡充

- ・令和5年6月に当県で「福岡県読書バリアフリー推進計画」が策定された。この計画は令和5年度からおおむね5年間であり、当館でのこれまでの取組の更なる充実が求められている。
- ・録音図書、大活字本といったこれまでの収集資料に加え、音声読上対応電子書籍やオーディオブックなど、障がいがある人だけでなく、紙の読書が困難な人にも広く提供可能な資料の充実

2 バリアフリーサービスの広報

- ・図書館でバリアフリーサービスを実施しているにもかかわらず、点字図書館と比較すると認知度が低い。効果的な広報で利用者の増加を図りたい。